

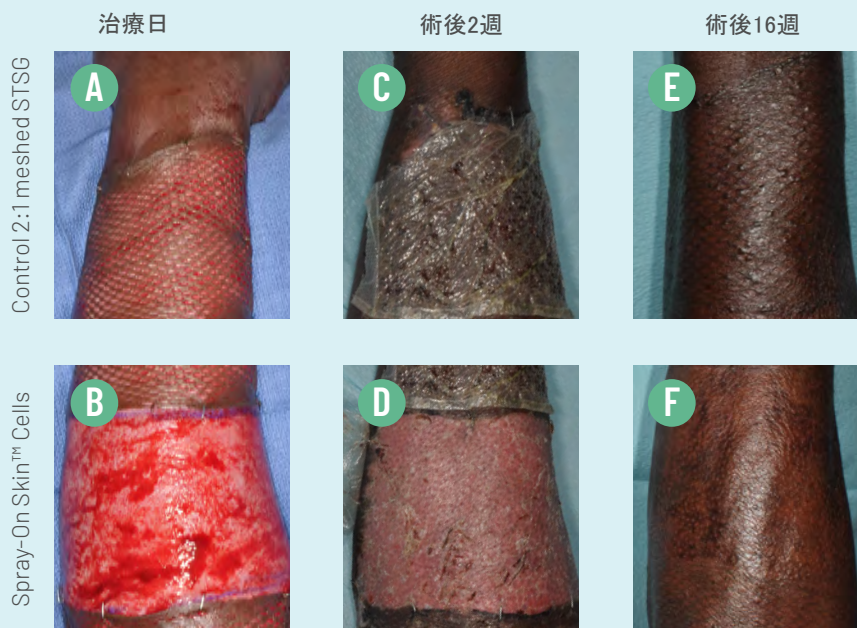
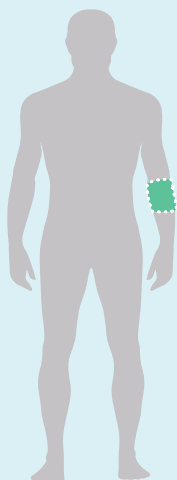
RECELL® システムによる治療で深達性部分層熱傷における採皮面積が縮小された

CASE STUDY / David Smith, MD / University of South Florida, Tampa, FL

患者の状態

火炎による熱傷を負った48歳男性。症例では、左前腕に対して実施した2:1網状分層植皮(STSG)と RECELLを使用した治療を比較した。

RECELL治療部位



治療法

前向き無作為化比較試験の一環として、この患者の治療は実施された。受傷3日後に熱傷部位の切除を行い、同等の2つの部位に分け、それぞれに無作為に2:1網状STSG(図A)またはRECELLシステムで作成したSpray-On Skin™Cells(図B)を使用することとした。どちらの治療部位にもTelfa™ClearとXeroform™、及び厚みのあるドレッシング材による被覆を行い、滲出液の吸収、再生する表皮の保護を行った。

臨床的アウトカム

2:1網状STSGの治療に比べ、熱傷治療にRECELLを使用することで、採皮面積を98%縮小することが出来た。術後2週目にはRECELL治療部位と2:1網状STSG治療部位のどちらも治癒した(図C&D)。術後16週目のVSS評価では色素再生と瘢痕の盛り上がりについてRECELL治療部位の方がSTSG治療部位よりも好成績であった(図E&F)。

結語

本症例では、従来の自家植皮術に比べ、RECELLを使用すると、治癒期間に妥協すること無く、深達性部分層熱傷治療における採皮面積が縮小できる事が示された。16週目の瘢痕の仕上がりについては、色素及び傷の盛り上がりについて2:1網状植皮術を実施した部位に比べ、RECELL治療部位の方が受傷していない部位に近かった。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

